

コンドロイチン硫酸鎖の合成異常を基軸とした疾患発症機構



講師

北川 裕之 先生

神戸薬科大学

生化学教室 教授

日付：2026 年 8 月 21 日（金）

時間：16時35分～18時05分

場所：E201 教室

講演概要

これまで、ゲノムにコードされたタンパク質の異常に基づき疾患発症の原因が解析され、多くの病気の成立機構が明らかになってきた。糖鎖は遺伝子の直接の産物ではないため、発生シグナルや外的ストレスにより変化する可塑性をもつ。そのため、同じゲノム情報をもちながらも、糖鎖の変化により異なる性質の細胞が生み出される。糖鎖情報は多細胞生物体の恒常性を維持するために重要であり、糖鎖の異常は生体の恒常性の乱れ、すなわち病気発症の土壌をつくる。近年、「未病状態」が健康・医療戦略を考える上で重要な概念になっている。健康と病気、成熟と老化の間は連続しているため、未病状態のコントロールの仕方で、病気の発症しやすさや症状の程度に個人差が生じる。本発表では、硫酸化糖鎖合成酵素の発現変化によるコンドロイチン硫酸鎖の生合成異常が未病状態をつくりだすという視点から様々な疾患の発症機構を調べた結果をお話したい。

問い合わせ先

太田隼人：hayato@soka.ac.jp

研究所HP：<https://www.soka.ac.jp/glycan/>

